

第3ステージ「学校評価の4点セット（4月）」例

学校の教育目標：自ら考え行動し、共に高まり合い、社会に貢献できる児童の育成

育成を目指す資質・能力：問題発見・解決能力、コミュニケーションを行う力

資質能力	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)	チームリーダー	
【生きて働く知識及び技能の習得】	課題解決学習を通して自ら学び考える子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末テストの全教科で平均80点以上の児童8割以上（毎月） ○ 体育の授業・取組で「運動が好き」「できることが増えた」児童が90%以上（アンケート調査・2ヶ月） 	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 質の高い「めあて、課題、まとめ、振り返り」のあるテンポのよい授業 ○ 体育の単元を通じた授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業者は、1日1回以上は、●●の授業を中心に、既習事項を意識した「めあて」の提示、質の高い課題設定までの時間（約5分）を確保し「課題」の質を担保する ○ 児童の思考に沿った授業展開を行い、次時につながる「振り返り」をさせる ※毎日セルフチェックシート記入・毎週研究主任（教務主任）集約⇒互見授業、校内研修等で活用 	研究主任
			家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動見守り推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担任と体育専科教員は、単元計画を毎週事前確認し、改善点等を共有する ※体力向上担当集約・毎週⇒校内研修で検証・毎月 ○ 保護者は月に2回以上は子どもの運動を見守る。または、一緒に運動する（散歩、ジョギング、ボール投げ、なわとび、柔軟体操、ラジオ体操等） 	体育主任
			地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の要請に応じて、土曜教室、チャレンジ教室（放課後補充学習）、学習支援活動（本の読み聞かせ）等に、ボランティアとして支援する 	●●コーディネーター
			学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活発に話し合えるための効果的な手立ての工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1日1回以上キーワードなどの手立てを講じ、5分間思考で自分の考えや根拠・理由を書かせ、言葉で表現させる ○ 週2回以上は話し合いをするための考えるための技法をもとに児童の考えや発言をつなげる授業を行う ※毎日セルフチェックシート記入・毎週教務主任集約 ⇒互見授業、校内研修等で活用 	研究主任
【未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成】	自他を大切にし、対話や話し合いを通して自分の考えを広げる子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業中友だちと意見交換をして、考えが深まった」児童8割以上（アンケート調査・毎月） ○ 「友だちのよいところを伝えることができた」児童8割以上（アンケート調査・毎月） 	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつと褒める声かけの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1日1回以上保護者は家庭内であいさつを率先して行う ○ 保護者は児童生徒の日常の様子に関心を持ち、よいところは積極的に褒めて認める取組を行う（連絡帳） 	●●コーディネーター
			地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつと温かい声かけの推進 ○ 地域行事への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休日、登下校時等、児童と温かい声かけやあいさつを行う ○ 学校運営協議会が中心となり、地域の行事等は児童、保護者と協働して運営する 	●●コーディネーター
			学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科・総合的な学習の時間を中心に社会貢献を推進 ○ 「自律清掃」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な社会との関わりの中から課題を発見させ、協働的に解決させることで社会貢献を実感する単元を学期に1回は設定する ○ 掃除時間の最初と最後に児童に黙想させ、「意識付け」、「振り返り」を徹底する ○ 児童に帰りの会で「振り返り」を発表させ、担任は価値付けを行う（数名/1回） 	研究主任 特活主任
【学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力 人間性等の涵養】	自ら課題を見つけ、様々な課題に仲間と協働しながら取り組む子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなと何かをすることが楽しい」児童の割合8割以上（アンケート調査・毎月） ○ 「お互いに気持ちよい言葉使いや声かけをする」のA回答児童8割以上（アンケート調査・毎月） 	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族のためになる仕事を考えさせ継続的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者は家庭での仕事を子どもと一緒に設定し、月1回子どもとともに振り返り、改善を図る（連絡帳・毎月） ※校内研修等で総括・分析・活用 	●●コーディネーター
			地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科・総合的な学習の時間への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会は必要に応じて、ゲストティーチャーや課外活動の学習サポートなどの企画運営に参加し授業支援を行う ※参加者の所感をコーディネーター集約⇒学校運営協議会等で還元 	●●コーディネーター
			学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラム・マネジメントの推進による教育課程、学校行事等の見直し ○ 会議の精選 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の精査及び行事の精選を行う ・授業実践を通して教育課程の見直し、修正 ・行事の精選、取組期間等の見直し ※【教務主任】每学期見直し⇒運営委員会で協議、職員会議で周知 ○ 年間計画に沿って教科部会等を開催する ※緊急時は校長が招集 ※【教務主任】毎月見直し⇒運営委員会で協議、職員会議で周知 	●●コーディネーター
【働き方改革の推進】	信頼し高め合う組織づくり及び地域との協働の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子どもと関わる時間が増え教育効果を感じる」教員70%以上（アンケート調査・毎月） ○ 「学校、家庭、地域が協働して教育に携わる」A解答50%以上（アンケート調査・2ヶ月） 	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「働き方改革」の共通理解 ○ 「学校の教育目標」「教育課程」の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一学期中にPTA総会、学力向上会議、学校便り等で、「効率的・効果的な教育活動のあり方」について共通理解する ○ 家庭・地域は以下の点について学校とともに検証・改善を行う ・「学校の教育目標」で目指す育成すべき資質・能力と教育課程の進捗状況、成果・課題等 ・本校が実施する「効率的・効果的な教育活動」の進捗状況、成果・課題等 ・学校・家庭・地域が協働できる教育活動内容 ※【教頭・教務主任】学力向上会議、学校運営協議会等で 每学期見直し⇒運営委員会で協議、職員会議で周知 	教頭・教務主任
			地域			